

フードドライブ開催予定

今年度もエフコープ生協さんにご協力をいただき、下記の日程でフードドライブを予定いたします。

～ 開催店舗 ～

エフコープ 花畑店・新宮店・舞松原店・久留米店

～ 開催日程 ～

2019年 7月 9日（火）10日（水）10時～14時
9月10日（火）11日（水）10時～14時
11月12日（火）13日（水）10時～14時
2020年 1月21日（火）22日（水）10時～14時

フードドライブって？

ご家庭に眠っている未使用の食品を寄付していただき、食べ物を必要としている方々に無償で渡す活動です。

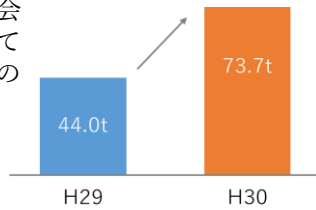
寄付していただける食品

- ・未使用、未開封のもの
- ・賞味期限が1か月以上あるもの

平成30年度食品取扱実績

食品取扱量は73.7トン、金額に換算すると442.2万円分の食品を提供しました。食品提供企業数は1年間で27社増えて89社となり、食品提供先も27団体増えて90団体となっています。

最近は、自治体や社会福祉協議会の窓口配布取扱いが広がりを見せており、フードバンクに対する社会のニーズを強く感じています。



【金額は600円/kgで算出】

寄付型自動販売機

売り上げの一部をフードバンク福岡へ寄付に回していたく支援型自動販売機の設置先を募集しています。

フードバンク福岡では現在、メーカー2社の協力を得て、自販機の設置を進めており、設置者様のご要望にお応えしています。コスト負担ゼロ（電気代メーカー負担）のタイプもありますのでお気軽にご相談ください。



フードバンク福岡サテライト久留米を開設

久留米市東町のワーカーズコープ久留米支所さんの一角をお借りして、平成31年4月から特定非営利活動法人フードバンク福岡サテライト久留米が活動を開始しました。当面は月2回、第1、第3火曜日の営業となります。

所在地 : 〒830-0032 久留米市東町367-18
ワーカーズコープ久留米支所内
営業時間 : 毎月第1,3火曜日 10:00～14:00



継続的な支援をお願いします！

フードバンク活動は無償で寄贈いただいた食品を、必要とする方々に無償で提供しております。活動自体で収益を上げることができないため、食品をお届けするための送料や運営費などを寄付に頼らざるを得ません。ぜひ、フードバンク福岡を継続的に支援するサポーターになって下さい。

正会員	年会費1口	個人	5,000円
		団体	20,000円
賛助会員	年会費1口	個人	3,000円
		団体	10,000円
振込先	福岡銀行 那珂川支店		
口座番号	普通 871236		
口座名義	特定非営利活動法人フードバンク福岡		
	理事 雪田千春		

特定非営利活動法人フードバンク福岡

鶴田事務所

〒811-1352 福岡市南区鶴田4-48-4
Tel 092-710-3205 / Fax 092-710-3206
Mail fbfbukuoka@gmail.com
営業時間 月、木、金曜日 10:00～16:00

宗像事務所（エフコープ宗像支所内）

〒811-3114 古賀市舞の里4-2-11
営業時間 毎月最終金曜日 14:00～16:00

サテライト久留米（ワーカーズコープ久留米支部内）

〒830-0032 久留米市東町367-18
営業時間 毎月第1,3火曜日 10:00～14:00

フードバンク福岡

検索



<https://www.fbfbukuoka.net>

FOODBANK FUKUOKA NEWS Vol. 3



クラウドファンディングに挑戦し目標金額の50万円を達成しました！
お腹がいっぱいになった時の思わず抱きしめたい子どもの笑顔をモチーフにした
ロゴマークを作成し、このロゴマークを見たら「ハッピーバナナプロジェクトね！」
というムーブメントをおこしたいと思っています。

なぜ今、フードバンクなのか

平成31年2月26日（火）、中村学園大学さんの大講義室をお借りしてフードバンク福岡シンポジウムを開催しました。

テーマは「なぜ今、フードバンクなのか」。
最近ではフードバンクに関するテレビニュースや新聞記事を目にする機会が増えてきたこともあり、なんとなくフードバンクという言葉は知っているよという方も増えてきました。しかし、その活動の実態はまだまだほとんど知られていません。

シンポジウムは、福岡県食品ロス削減推進協議会会長でもあられる中村学園大学甲斐諭学長の開会挨拶に始まり、フードバンク福岡理事長雪田の基調講演、中村学園大学手嶋准教授のコーディネートによるパネルディスカッションにより、「フードバンクが果たしてきた役割と、これからフードバンクに期待されること」を深く考える2時間半となりました。

寄贈・活用・支援の立場から

ゲストに石井食品㈱の古屋由人さん、子ども食堂・介護支援センターこころ施設長の原貴代子さん、エフコープ生協組合員理事花田富子さんをお招きし、フードバンク福岡事務局長の岩崎を加えパネルディスカッションを行いました。コーディネーターは、中村学園大学の手嶋康則准教授。ゲストの皆様にはそれぞれの立場から「会社、団体の活動内容」「フードバンクとの関わり」「今後、フードバンクに期待すること」などをお話いただきました。

- フードバンクに商品を提供することは、食品ロスが役に立つだけでなく、子ども食堂や地域食堂に集まる消費者にこだわりの商品を伝える機会にもなる。（古屋さん）
- 石井食品さんに提供いただいた栗きんとんのように季節や文化を感じることのできるものは、いつも以上に会話に花が咲くし、食育や世代間の交流にもつながる。（原さん）
- フードドライブなどの活動に実際に参加してみると、協同や心のゆたかさといった生活協同組合の理念や行動の基本と親和性があり、地域や社会のためにフードバンクは必要な活動だと感じた。（花田さん）

私たちフードバンク福岡の理事にとっても、普段はなかなか聞くことのできない。一步踏み込んだ想いや現場の意見を確認させていただく機会となりました。

フードバンク福岡が果たす役割

パネルディスカッションにより改めて感じたフードバンクの大切な役割は、「食品を介して人と人、情報を繋ぐ」ということです。

フードバンク活動は「食品企業の製造工程で発生する規格外品などを引き取り、福祉施設等へ無料で提供する団体・活動」（農林水産省HP）と表現されることから、単純に提供側から受取先へ食品をつなぐ役割のように捉えられることが多いように感じます。しかし、全国のフードバンク団体は食品を受け渡すだけでなく、人と人とのつながりや地域の絆を強くすることに腐心しており、このような捉え方はフードバンクの一面しか見えていないといえます。フードバンク福岡では様々な方法で食品を提供していますが、そのほとんどが学校や社協、行政、ひとり親家庭支援や学習支援、子ども食堂といった地域の団体を経由して行われています。それぞれの団体は、各分野（生活支援や



学習支援、地域づくりなど）のエキスパートであり、様々な悩みや課題に対する知識や経験、技術を持ち、素晴らしい活動を行っています。しかしながら、こうした団体のことを知らない、知っていても相談の仕方がわからないなど、必要としているのに大切な情報にアクセスできていない方が非常に多いのも事実です。

フードバンク福岡には、これまで行ってきた社会課題の解決に最前線で行き届く個別の団体に対する支援だけでなく、それぞれの団体間をつなぐ、必要な情報を届けるといった役割が求められているのではないのでしょうか。このシンポジウムでの気づきを胸に、より一層皆様に用いられる団体であり続けたいと思います。

フードマネジメントと食品ロス

今回、会場を提供いただいた中村学園大学では、栄養科学や食品製造などに食品流通やマーケティングなどのカリキュラムを加え、食のスペシャリストを育成するフードマネジメント学科を2017年に開設され、その中でフードバンクに関する講義も行われています。

甲斐諭学長は冒頭挨拶のなかで、「日本人の飲食消費額76兆円のうち、生鮮品は2割弱。残り8割は加工品や外食で消費している。そういう意味で食品に関して製造から流通、マーケティングまで学ぶフードマネジメントは社会に求められていると言えるし、フードマネジメントを学ぶ上で、食品ロスの削減や福祉も含めた活用を考えることは切っても切り離せない重要な要素のひとつである。」とおっしゃられていました。

学生たちは、このような学科で、経済だけでなく環境や福祉に配慮することの大切さを学んでいます。そんな彼らが創り出す未来が今からとても楽しみです。

フードマネジメント学科の皆さんに会場設営や募金活動など多くのご協力をいただきました！



学生の皆さんが作ってくれたPR用ポケットティッシュ



バナナでみんなを笑顔にしよう

私たちが活動を進めるうち、私たちの未来である子どもたちの貧困問題の解決は、喫緊の課題であると感じるようになりました。そんな中、子どもたちの笑顔を守りたい、笑顔になってほしいという思いで始動したのが「ハッピーバナナプロジェクト」構想です。

今、朝ごはんを食べる習慣が家になかったり、経済的理由などで、朝ごはんを食べてこない子どもたちが増えていきます。朝食を抜くと午前中の授業に集中できず、学校生活も楽しくありません。

ハッピーバナナは「朝食サポート」としてバナナを無償配布し、「みんなで食べるとおいしい！楽しい！」という子どもたちの笑顔でいっぱいにする活動です。

ソーシャルインターンシップ事業の受け入れ

平成31年2月1日～3月31日にかけてインターンシップに来てくれた大学生の寺崎さんと林さんにインターンの感想を寄稿いただきました。社会課題を自分事として捉え、真剣に誠実に取り組んでくれたことを心から感謝しています。

ソーシャルインターンシップ事業は、NPO法人ドットジェイビーが提供するもので、大学生が長期休暇の2か月間、NPO法人等で実務を経験しながら社会課題等を知る体験学習プログラムになっています。

プログラムに含まれる事業提案コンテストで二人は見事決勝に進出してくれました。

インターンの感想

寺崎 楓

フードバンクとは何か、説明は省略させていただきますが、初めてこの取り組みを知ったときは、まだ知らなかった社会の一面が垣間見えた気がしました。

実際に活動に参加して思ったことは二つあります。一つ目は、フードバンク福岡の規模の小ささです。これは、自分が予想していたよりもまだ始まったばかりだった、ということです。数年前から始まった事業でもあり、協賛企業もまだ多くなかったのも、二か月間のインターンでの最初の仕事は、シンポジウムに参加する企業の募集でした。素晴らしいと思う取り組みがあまり広く知られていなかったのは残念でしたが、フードバンク福岡が成長していく過程で活動に参加できて、感慨深いものがありました。実際、フードバンク福岡は徐々に活動範囲を広げ、協賛して下さる方々も増えています。インターン中にも、新しい企業の方が、協力のための会議をされていました。もっと多くの企業や住民にフードバンクのことについて知ってもらいたいと思います。

二つ目は、NPOの活動における、団体そのものの維持と事業の継続の大変さです。ご存知の通り、NPO団体は営利を目的としません。そのため、主な活動財源は募金となります。無償で食品を預かり、無償で提供するため、事業収入がありません。他のNPOのように、団体の存続のために必要なお金を集めるような事業も行っていない。そのため、簡単に活動を拡大することができません。しかし、様々な事情で食品を必要としている人は、まだまだたくさんいます。皆様のご協力をお願いいたします。

クラウドファンディングに挑戦

支援総額 518,000円（目標 500,000円）

現在福岡市内の8つの学校で行われている朝食サポートですが、他校の先生や自治会の方々がプロジェクトを知り、更に広がっていくことを目指して、団体初のクラウドファンディングにも挑戦しました。いただいたお金は、ガソリン代や高速代に使い、安定的な活動に繋がっています。

ハッピーバナナを通じてみんなが笑顔になること。そして何より、「一人ぼっちじゃない、あなたのことを見ている人たちがいる」、「一人一人を、かけがえのない存在として大切にしたい」という思いを伝え合える社会にしたいと考えています。

フードバンク福岡インターンを通して

林 枝里佳

この度、インターンシップをさせて頂き、社会におけるフードバンクという存在の重要性を感じました。フードバンクは、「フードロス」と「貧困」といった現在の日本における社会問題を解決する仕組みです。支援を求める人が私たちの身の回りに居ることを知った今、私たち一人一人が出来る支援を見つけることが大切と感じました。

また、インターンの中でフードバンク福岡のシンポジウムや支援する会等、話を聞く機会を設けて頂きました。愛する商品を一人でも多くの人に食べてもらいたいという思いを食べることの幸せを感じてほしいという思い。フードバンクは沢山の人の温かい思いを乗せて活動をしていることに感動しました。

一方で、フードバンクの認知度が高まるにつれ、食品提供をして下さる企業数・提供先の団体数も増えています。一つ一つの企業や団体とコミュニケーションを取りながらの支援、食品を安全な状態で渡せるような品質管理など事務所での仕事は多岐に渡ります。その管理はとても大変なもので、それをすべて行っている事務所の方たちは本当に素晴らしいと思います。

初めに述べた通り、私には私にしかできない支援があり、あなたにはあなたにしかできない支援がきっとあると思います。一人でも多くの人に笑顔になってもらえる“思いやりの連鎖”がこれから先もフードバンクの周りに広がることを願っています。



事業提案コンテストの様子（左：林さん 右：寺崎さん）